

2011年12月16日13時～17時、五橋ビルにおいて、第189回の研究会が開催された。参加者は22名であった。アルプス電気㈱の谷本勲（技術顧問）より「東日本大震災と品質工学の役割」と題した講演が行われた。また、機能性評価祭り2011の報告がなされた後、以下の内容が定例会で発表され、議論された。

(1)「社内へのQE導入を目的とした除震台の機能性評価」日進工具㈱開発部 小日向工  
自社内へのQE導入のきっかけとして、顕微鏡用の除震台(空気ばね式とコイルばね式)の機能性評価を行なうこととした。そこで、除震台の機能の考え方や、何を測定すべきかが相談の内容となった。その結果、実験の方向としては、ばねの劣化や説明書の注意書きを用いて誤差因子を考慮し、何らかの方法で振動を加えながら顕微鏡で測定を行ない、画像の転写性を考えることとなった。また、振動を加える手段については別途社内で引き続き検討することとなった。

(2)「MTシステムによる通常会話音声の解析」植英規 福島高専

電話による「なりすまし」の防止などを目的とし、RT法を用いた音声情報からの個人識別を行う手法、について検討している。本研究では識別の対象として電話などによる通常の会話音声を想定しており、特定のフレーズをもとに単位空間を作成するような作業は不要としたい。そこで現在までの検討内容と実験結果が紹介され、これ対して、フーリエ解析以外の解析手法、あるいはデータの取り方に関する意見が出された。

(TDK-EPC㈱ 竹花 末起一 記)